

[講演要旨] 1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動：京都大学に残る記録

中西 一郎（京都大学 理学部 地球物理学教室）

1923年（大正12年）9月1日の関東地震発生直後に京都帝国大学が行った学術的・社会的活動を示す記録を調べている。4種類に大別出来る。（1）京都帝大地質学教室による関東地震の学術的現地調査（小川琢治，大正12年12月）。（2）地球物理学教室による地震計記録を用いた震源地と地震断層の推定（原田三夫，大正12年12月）。（3）医学部救護班による東京に於ける診療活動（筆者不明，大正12年12月）。（4）東京帝大に対する支援活動（荒木寅三郎，大正12年）。今回は（1）に関して報告する。この関東地震現地調査に関しては，その概略を小川琢治が報告している（大正12年12月）。

『大正12年9月1日関東大地震踏査報告』（以下『踏査報告』）（大正12年10月）と題する手書きの調査記録が京都大学理学部に保存されている。上記の小川琢治による概報中に「目下，松山教授，本間講師は三浦，房総両半島方面を踏査しつつあるを以て，両氏の帰学を待ちて更に関東方面の調査を開始する方針を樹つべき予定なり。」とあり，調査終了前に書かれたこと，また概報では調査に加わった学生の氏名が略されていることに対し，『踏査報告』ではこの予定の期間についても調査結果が書かれており，さらに学生も含め調査参加者の氏名が書かれていて原記録の収集にも役立つと思われる。一方，謄写印刷のため印字に濃淡の斑があり判読が困難な箇所もある。また，複数の記録・日誌を191頁にまとめ製本しているが，記録の順序が適切でない箇所もあり，読みやすいとは言えない。

予備調査も含め京都帝大による現地調査をまとめたものを表1に示す。◎で示したように，調査は（1）予備調査（9/2-），（2）第1回調査（小川・松山教授，第1，2，3班；小牧實繁，第4班）（9/7-9/21），（3）第2回調査（学生，2班）（9/21-9/27），（4）本間講師による調査（9/2-10/30）から成る。

表1：京都帝大による1923年関東大地震調査。調査参加者，期間，地域。

小川琢治（大正12年12月）による。

◎予備調査：本間講師（9/2-）東海道鉄道沿線方面；中村教授，本間講師，小野正三 東京方面。

『大正12年9月1日関東大地震踏査報告』による。

◎第1回調査：本隊（第1，2，3班）；小牧實繁（第4班）。

頁	参加者（△学生，○大学院学生）	班名	期間	地域
1	松山教授(第3班)，上河助手(第2班)， △平井一久(第1班)	先発	9/7 - 9/10	京都～岐阜～浜松～静岡～沼津
1 - 10	小川教授，○伊藤貞市 藤井講師，△上治寅次郎，△松下進 石川講師，△副島恒春，△田中元之進 ○小牧實繁	第1班 第2班 第3班 第4班	9/8 - 9/10 " " 9/8 - 9/8	京都～静岡（県庁）～沼津 米原駅にて本隊と別れる。
11 - 26	小川教授，○伊藤，△平井 藤井講師，上河助手，△上治，△松下 松山教授，石川講師，△副島，△田中	第1班 第2班 第3班	9/9 - 9/13	三島，伊東，初島，熱海 沼津，箱根，小田原，小山 御殿場，甲府
49 - 66	藤井講師，上河助手，△上治	第2班	9/10 - 9/13	箱根，小田原，酒匂川流域
67 - 110	石川講師，△副島，△田中	第3班	9/12 - 9/18	山梨県及び長野県方面
111 - 124	○小牧	第4班	9/9 - 9/21	中央線沿道，東京市内， 房総半島，三浦半島， 神奈川県下，東海道沿線

◎第2回調査：2班による調査。

45 - 47	計画，小川教授による講話，出発	第1，2班	9/20 - 9/21	京大，京都～静岡～沼津
125 - 147	△上治寅次郎，△小出亮，△青武雄， 高橋直作，静岡県土木課 大石岩吉	第1班	9/22 - 9/27	三島～小山～河内川流域～田代
27 - 44	△君塚康治郎，△春本篤夫，△松下進	第2班	9/22 - 9/25	沼津～三津～葦山～大場

149頁 - 173頁：被害報告の写し（神奈川県，静岡県，長野県）

175頁 - 191頁：

◎本間講師による調査。「武蔵，相模，房総地方，大島，駿河大宮，富士山，八ヶ嶽等に関する記事。」

「本間講師が9月2日以後10月末に至る間数回に渡り調査されし事実につきて11月5日地質談話会にて発表せられしものの大要なり。」